

八清親和会 自治会役員のひとり言

平成30年9月14日 No13

八清親和会 副会長 吉田祐治

先月の、8月26日(日)猛暑の中昭島市総合防災訓練が東部地区の東小学校で実施されました。自治連の参加協力自治会 第3ブロック長兼昭和中学校避難所運営委員会 地域代表副委員長として、準備打ち合わせから当日の参加までを関わり、気が付いた点や次回以降の要望等をまとめ市防災課ならびに自治連にて提出しました。

次年度開催ならびに協力参加自治会にも参考になればと思い「自治会役員のひとり言」として要約を紹介します。

1. 結論

- ◆ 参加自治会ならびに一般市民対象の「避難所体験訓練」は、昨年の総合防災訓練(光華小)と比較し、問題点が大幅に改善され、順序良く参加自治会員もゆっくり・ゆったりと指示にしたがって説明を聞きたり、体験見学することができ、好評であった。
- ◆ 参加自治会の参加者が、予定約420名(内昭和中避難所運営委員会260名)に対し実績356名と、予定よりも約60名ほど減ったのは残念であった。
この直接の原因は、八清親和会の参加人数が、予定100~150名に対し参加者が80名に減ったことが影響している。 詳細分析は次項目以降で説明する。
- ◆ 昭和中学校避難所運営委員会の6自治会は、東小学校の会場まで800m~900mの距離があり、猛暑の中の集団避難訓練は、酷であった。特に高齢者、未就学児世帯、小学校低学年世帯のリタイアにつながり、猛暑に対する対策を防災課と協議しておくべきであった。
- ◆ 訓練最後の、参加者全員が整列実施予定の「講評」を、猛暑のため心配していたが、中止した主催者側の臨機応変な判断は、残念であったが良かった。

2. 良かった点、今後期待できる点

- ◆ 「避難所体験訓練」について
 - (1) 体育館の参加自治会員避難所体験訓練入場を、1グループ60名程度に分け(6グループ)入場時間。見学時間を決めて実施したことは、非常に好評で効果があった。
 - (2) 体育館内の、体験見学路にシートを敷き、体験見学順路をわかり易くしたのは良かった。
 - (3) 各ブースでの、説明も簡潔で分かり易く、また説明者も良かった。
 - (4) 今回の実施方法、内容をもっと改善、充実して行けば、さらに良い総合防災訓練の「避難所体験訓練」になると確信します。

3. 参加して感じた問題点と今後の改善点について

- ◆ 参加自治会から見た総合防災訓練全体について
 - (1) 総合防災訓練の実施時期：現在8月最終日曜日になっているが、9月が望ましい
(理由) 8月は各自治会夏祭りの季節で、会員は各週末(土・日)準備、祭り参加、後片付け等の活動に出ており、また子供達も夏休みで行楽地に行ったり、お祭りや子供会行事の参加で毎週何らかの活動をしており、親御さん共々8月最終日曜日は、総合防災訓練に参加したいが疲弊しているため、通常の参加要請では、なかなか集まらない。
9月は、自治会や老人会、子供会の行事がほとんどないため、会員は参加し易い。
 - (2) 総合防災訓練の「参加協力自治会」表記が「〇〇ブロックの一部 〇〇自治会・・・」となっているが、解かり難く、「〇〇学校避難所運営委員会自治会 〇〇自治会・・・」表記の方が解かり易く統一出来ないか。
(理由) 防災課のポスター、回覧お知らせでは「参加協力自治会 自治会連合会第3ブロックの一部 八清親和会・・・」と表記されているため、会員や除かれている自

治会長から、何故入っていないのかの問い合わせ等があり説明を要した。

- (例) 第2ブロックは5自治会中 3自治会が除かれており、第3ブロックは6自治会中 2自治会が除かれており、実際の参加協力自治会は「昭和中学校避難所運営委員会」の6自治会のため、会員にはこの方が解かり易いとのことである。第3ブロックでありながら、他の学校避難所運営委員会の自治会より、総合防災訓練の参加がいつ回って来るかわからないため、関係者・希望者の参加要請もあった。

- (3) 総合防災訓練の防災課と自治会連合会の協力と、その支援ならびに自治会の参加目的を明確にし、会員に周知することが参加者を増やすことになると思われる。

- ◆ 自治会連合会と参加協力自治会の総合防災訓練への協力は、「総合防災訓練のお知らせを参加学校避難所運営委員会単位に、準備段階から自治会員へ周知させ、如何に多くの会員を参加させる」

か、であると思っている。

- ◆ 参加協力自治会ならびに、自治会員に訓練目的を明確に明示する。

<訓練目的>

- 1) 各自治会の、第1次避難場所から避難所(会場)までの「集団避難訓練」
- 2) 学校避難所運営委員会活動班による避難所設営訓練における「各役割体験訓練」
- 3) 自治会員の実際の「避難所開設・運営訓練の見学体験」
- 4) 支援機関・団体による避難所での「非常食炊き出し・試食体験訓練」

これらの訓練目的をキーワードとした「参加呼びかけお知らせ基本パターン」を、防災課のポスター・お知らせとは別に、自治連 地域防災委員会で作成し、これを各参加協力自治会でコピーをし、回覧周知させたらどうか。

- (理由) 今回、昭和中学校避難所運営委員会の自治会より、第3ブロックに、防災課のポスター・回覧お知らせ(ポスター同じ内容のA4版)だけでは、多くの参加者を集めるためのインパクトが弱い、また、参加したい、という気にさせるには、どのような内容のものを作成したら良いかわからない、あるいは、PCで作成できる人がいないため自治会では、作成できない等の要望が寄せられたが、時間的に間に合わなかった。

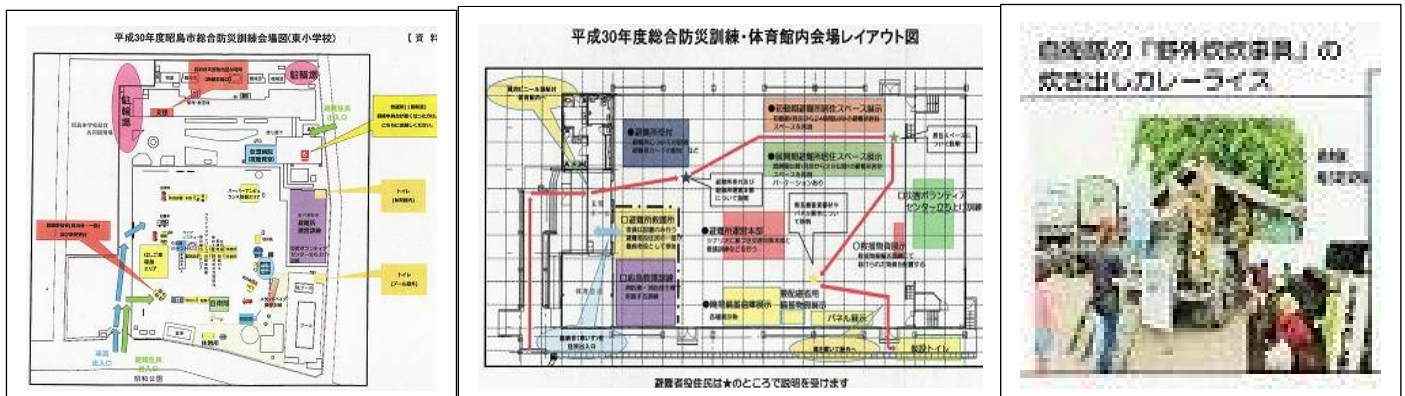
- (例) 八清親和会については、退院後総合防災訓練まで10日余りしか残されていないかったが、普通の参加お知らせだったため、参考添付した「平成30年昭島市総合防災訓練八清親和会参加の補足」を全世帯に配布し、老人会、子供会員は各々でまとめ、役員は個別確認、一般会員は、「訓練参加票」に記入し組長・常任委員経由あるいは、直接提出にした結果、110名まで参加者見通しを付けることが出来たが、猛暑(朝9時で30℃)がぶり返し一部高齢者、未就学児の世帯参加者などが当日も含め、前日からリタイアしたのは誤算であった。しかし、このような内容と方法を取れば多くの参加者を集められることができ確信を得た。

(参考: 積み上げた参加予定内訳: 会員でもある老人会30名、子供会親御さん含め30名、役員常任委員20名、一般会員30名+ α 、サーパス中神自治会+ α =110名+ α)

- (4) 自治会員を総合防災訓練に参加したいと、いう気にさせる、参加者を増やす資料の活用

- ◆ 避難所設営運営訓練準備のための、参加自治会避難所運営委員会の席上、防災課より配布された防災課作成資料の、案の状態でも良いから活用し、自治会内あるいは、東小・昭和中避難所運営委員会として自治会員へのPR、周知活動を行えば参加者が増えると思われる。

- 1) 例「平成30年度昭島市総合防災訓練会場図（東小学校）：校庭訓練全体図
- 2) 例「平成30年度総合防災訓練・体育館内会場レイアウト図：避難所訓練会場図
- 3) 「自衛隊練馬駐屯部隊による炊き出し訓練とカレーライスの試食」写真



この2つの図で参加予定者は、会場で何の訓練が体験できるか、また見学できるか、がわかり参加して見ようと言う気にさせることができる。

八清親和会は、6月からほぼ月2回発行されている自治会広報「八清親和会トピックス」や、「お知らせ」でこれらの会場図、レイアウト図、昨年の総合防災訓練参加写真等を使い、会員への参加を促すPR繰り返し、周知活動をおこなってきた結果会員へ関心が浸透し、成果があった。

- (5) 2～3年先までの総合防災訓練会場の公表による該当学校避難所運営委員会、参加協力自治会の、他の訓練参加・見学による準備、心構えで不安、戸惑いの解消をしたらどうか。
 - ◆ 2か月弱の準備では、初めて経験する自治会長、関係者に戸惑いや不安があり、この解消になる。

◆ 「避難所体験訓練」について

- (1) 体育館内の避難所訓練見学で、「簡易備蓄器材やパネル展示についての」説明場所から、「応急看護訓練」場所に来て見学した後、「簡易備蓄器材やパネル展示についての」説明場所迄戻り出口に向かうルートになっていたが、一部自治会は「応急看護訓練」と「避難所救護所」間の負傷者役（車イス）出入り口を、見学者の出口と間違えて出てしまい混乱した。ルート誘導、又は、標識が必要であった。
- (2) 体育館の参加自治会員避難所体験訓練入場を、1グループ60名程度に分け（6グループ）入場時間。見学時間を決め実施したことは、良かったが、一番最後になった八清親和会の入場時間、見学時間は、午前10時20分～10時50分のため校庭の専門機関・団体の訓練見学・体験に行ったため、避難所体験訓練の集合は、参加のおおよそ半数しか集まらなかった、特に子供世帯は炊き出し訓練の試食に並んでしまったため避難所体験訓練を行わなかった。炊き出し試食時間を明確にして、アナウンスするなど、避難所体験訓練が終わるまで試食体験は始まらないことを伝えるなどの改善が必要と思われる。

以上